

令和6年度第2回印西市文化財審議会会議録

1. 開催日時 令和7年3月24日（月）午後2時～午後3時30分
2. 開催場所 印西市役所 農業委員会会議室
3. 出席者 一島委員、滋賀委員、岡崎委員、高橋委員、石井委員、外山委員
4. 欠席者 富田委員、酒井委員
5. 傍聴者 0名（定員5名）
6. 事務局 生涯学習課 飯島課長、菅谷、根本、大関
7. 会議内容（すべて公開）
 1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 議事
 - (1) 令和6年度事業報告について
 - (2) 令和7年度事業計画（案）について
 - (3) その他
 4. その他
 - (1) 吉高の大桜について（資料1）
 - (2) 武西百庚申塚の地形測量について（資料2）
 5. 閉会

8. 会議録

1. 開会、2. 会長あいさつ
3. 議事
 - (1) 令和6年度事業報告について
《事務局説明》
資料を基に令和6年度事業報告について説明

《委員意見》

委員：香取秀真の企画展について、展示や講演会を実施したことにより、印西の人たちに秀真の知名度は上がったのか。

⇒アンケートの結果を見ると、印西にこのような偉人がいたのか、という意見が多くあり、知名度は上がったと考えている。印西市には企画展示室がない中、作品を約60点展示し、3週間程度開催し、1,000名程度の来場者があったことから、市民への認知度は上がったと言える。

委員：実家はまだ船尾にあるか。

⇒船尾に所在している。

委員：今回の展示等を通して、地元の方から資料の寄贈を受けたり、新資料が出てきたと聞いている。香取秀真に限らず、今後も市民への呼びかけを続けて資料を表に出していくということをしてほしい。

⇒了解した。

委員：埋蔵文化財の発掘調査はどのあたりで実施されたのか。

⇒市内全域で行っている。一番大きかった調査は竹袋地区における太陽光発電施設建設に伴うものである。そのほか、船穂地区や武西地区などで実施している。近年では千葉ニュータウンの周辺地域における開発が増加している。

委員：それは台地上にあたるか。

⇒台地上の開発が主体となる。

委員：貝化石分類整理事業について、千葉県立中央博物館や国立科学博物館の研究者と共同で、リスト化を行っている。資料が膨大なため、今後も活用に向けて継続して作業を行っていく予定となっている。

委員：木下交流の杜歴史資料センターにも貝化石資料が展示されている。収蔵庫内にも多数の資料が保管されているが、活用するには資料の整理が必要となる。いずれはきちんとした展示施設が必要となると考えられる。

○意見質問については以上。

○議事（１）について承認をいただいた。

（２）令和７年度事業計画（案）について

《事務局説明》

資料を基に令和７年度事業計画（案）について説明

《委員意見》

委員：無形民俗文化財、八幡神社の獅子舞について、昨年秋に保存会を解散したという話を聞いた。次の代の継承者が見つからず、地区で行っていくことが難しいという話となり、会の解散という結論となったと聞いている。現在、区長さんに話を詰めていただいているところではあるが、現時点では４月の獅子舞は実施せず、本殿で祭礼のみを行いたいという話が来ている。中根は辺田前と戸崎の２地区からなり、辺

田前は人数の多い地区ではあるが、ここ2年ぐらいでお祭りの仕方も大きく変わってしまったところである。お祭りを続ける気持ちはあるので、どのように続けていくのかという話し合いを行っている。中根にはもう一つ神楽もあるので、なんとか残せていければと考えている。

委員：後継者不足ということか。

委員：その通りである。他地区の獅子舞は20代や10代の子供たちが舞っているところもあるが、昔は八幡もそうだったが、現在では若者が外に出て行ってしまっているため、30代、40代がほぼいない地域となってしまっている。お祭りをするために外から帰ってきてもらっている状態である。

委員：和泉のいなざき獅子舞も後継者不足と聞いている。旧地区では小学生も減っており、永治小学校も閉校となってしまった。無形民俗文化財の継承は難しい問題である。

委員：中根の神楽も中学生があがってこない、後継者がいないといった課題があったが、お祭りに興味のある外部の子供たちに声掛けして、神楽を舞いたいという子たちに広く開いている状態である。

事務局：武西の六座念仏も解散してしまった経緯がある。説明にもあった通り、今年度は無形民俗文化財6団体に集まってもらい情報交換を行ったり、他市で行われている地区外の人を募集する事例などを紹介している。地区ごとに獅子舞に対する考え方があり、どうするかはなかなか決まっていないが、生涯学習課ではこれらの民俗行事の保存継承に向けて検討を進めているところである。次年度は市史編さんでも本埜・印旛の民俗調査を先行して行う予定である。

委員：武西の六座念仏は、結局踊り手がいなくなってしまったため解散してしまったが、ビデオには全て収めてあるため、それらの上映会のようなものを開いて、関心をもたせるのも一つの手法だと思われる。

事務局：令和8年度は、印西市施行30周年であり、過去に記念行事として無形民俗フェスティバルを開催したこともあるため、そのような方向も検討していきたい。文化財の保護の根幹となる地区の少子高齢化という問題もあると思われる。現在、印西市全体としてみれば人口は増加しているが、旧地区では人口の減少が続いている。そういうところに無形民俗文化財が継承されているため、継承が難しくなっている。地域コミュニティの衰退が、文化財の継承の問題と重なってきている。

委員：少子高齢化や後継者の問題は、民俗の専門家の間でも話題になっている。その中で、PTAの活動をベースとして、小学校区ごとという考え方で後継者を育てていくという方法も検討されている。村という単位は江戸時代に形成されたものであり、現代ではままとりの意識が薄くなっている。そのような中で、小学校区はままとりを意識する場となっている。もし集落単位から外れても良いのであれば、一步踏み出すのは小学校区が良いのではないか。

委員：東庄町でも笹川の神楽という有名な神楽があり、放課後子ども教室という活動の中で、子供たちに神楽を教えていた。そのような活動をしている中で、子供たちが減っていき、小学校1校、中学校1校となってしまった。それまでは笹川の子供たちだけが笹川の神楽を習っていたが、他地域の子供たちも神楽を習う権利が自動的に発生してしまった。外からの人が入ることが嫌だ、という地域もあると聞いているが、小学校の合併により強制的にそのような状況となってしまった。

委員：そういう地域は印西にもあるか。

委員：地域による。中根の神楽は早くから外へ外へと開いており、その成果も少しずつ出てきている。神主個人の考え方もある。おまつりの準備の問題もある。準備を地元だけがやって、他地域の方は参加だけする、というのはどうか、という話も聞いたことがある。難しい問題だと考えている。千葉県に関していえば、閉鎖的な集落は少ない印象がある。

委員：浦部の石尊様は正月三が日は大勢の人が参拝する。人々に興味関心がないわけではない。戸神でも同様の事例がある。日本人の民族意識として、清めという意識がある。浦部では7月にははしご立てという行事があり、神輿を盛大に倒す珍しい行事である。このような興味関心を将来にどうつなげるか、ということが課題となる。

委員：無形民俗文化財と同様、歴史的建造物にも非常に興味がある。全て保存をするということは不可能だが、一方で歴史的価値のある建物が壊されたり、朽ちていってしまう、という事例がたくさんある。特に旧印旛地区、本埜地区には古いものがたくさん残されている。

せめて記録保存を行う必要があると考えており、ぜひ建造物の調査を行っていただきたい。歴史的建造物の見学等も行えると良い。木造の旧小学校校舎等、平面図・立面図を残しておくことが大事だと考える。

委員：建造物だけではなく、登録文化財制度というものがあり、近年、建造物以外のものも対象として拡大している。登録文化財は申請制度である。外観および内観に関し

でも指定文化財よりゆるい規制のため、補助金はあまり出ないが、その中から指定文化財になるようなものが出ており、一つのステップとして考えることもできる。文化庁の調査官の情報収集の一環ともなっている。印西市でも市民の皆さんに周知していくことにより、積極的に検討していくことが重要である。

委員：千葉市では「市民文化資産」という名称でさらに広く扱っている。

委員：図書館で民話の絵本をつくるという話があるが。

⇒「そうふけっばらのきつね」という話と「光堂の竜」という話を絵本として子供たちに伝えていこうという計画がある。

○意見質問については以上。

○議事（２）について承認をいただいた。

（３）その他について

○議事は特になし。

4. その他

【報告１】

（１）吉高の大桜について

《事務局説明》

- ・昨年度より樹勢が弱まっており、大規模な伐採を行ったうえ、経過を観察しているところである。今後の方針について樹木医たちにより報告があった。
- ・今年度２月２１日に土壌調査の追加調査を行った。剪定時にも木の周辺に大きい根が張っていないことが指摘されており、今回さらに広い範囲で調査を行ったところ、大型の根は横ではなく縦に広がっていることが確認された。桜は塚の上に生えているが、塚の周辺はかなり近い場所まで畑として使用されており、すぐに根が切られてしまうことから下に伸びていったと推測されている。このことが生育状況に関係しているかはこれからの調査となる。
- ・今回、根の一部を切り、そこから横方向の根がはるように対策を行った。
- ・次年度以降は３か年に分けて木の周囲の土壌改良を実施する。施肥や温湿度を一定に保つ対策を行う等、経過を観察しながら対策を行っていく予定である。
- ・昨年に挿し木による２代目の生育に成功した。今後も可能な限り２世代目の継承も行っていく。
- ・今年度は枝打ち後初めての開花となるため、花の咲き具合も確認していく。

《委員意見》

委員：今年の開花予定はいつごろか。

⇒例年、ソメイヨシノの一週間程度後となっている。

【報告2】

(2) 武西百庚申塚の地形測量について

《事務局説明》

- ・市指定史跡「武西の百庚申塚」の庚申塔群の倒壊に伴い、保存を行っていくための事前作業として、現地形の測量を行った。
- ・通常の地形測量のほか、3Dレーザー測量を行い、点群データとして記録している。
- ・次年度について、第1回審議会では基礎をつくり、その上に百庚申をのせる予定としていたが、今年度は倒壊が多くなかったこともあり、まずは損傷の激しい2個体から修復を行っていくこととなった。
- ・現状で倒れている個体が1点あるが、起こすには基礎を入れる必要があるため、他の石造物の修理との兼ね合いから、実施については検討を要する。
- ・今後は、状況を判断しながら適切な保存を行っていく。

《委員意見》

委員：石造物は石材の材質もあり、文字等が剥落して読めなくなってしまうことが多いため、3Dなどの方法も含めてまずは記録保存を行って欲しい。

⇒現況でも剥落が見られる個体もあるが、可能な限り記録保存を行っていく。

委員：百庚申に関係する行事は残っていないのか。

⇒現状では把握していない。以前は地元の人たちがお参りしていたと聞いたことがあるが、フェンスで入れなくなってしまったため、現在行われているかは不明である。

委員：庚申信仰にまつわる行事があった可能性が高いため、事例があれば教えてほしい。

⇒了解した。

委員：指定した時には聞き取りは行っていないのか。

⇒指定時は不明だが、町史編さんの時に聞き取りを行っている可能性がある。確認する。

○意見質問については以上。

5. 閉会

会議資料

会議次第、令和6年度事業報告について、令和7年度事業計画（案）について、吉高の
大桜について、武西百庚申の地形測量について

令和6年度第2回印西市文化財審議会会議録は、事実と相違ないことを証する。

令和7年5月12日

印西市文化財審議会委員

高橋 克